

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4078700145
法人名	有限会社 裕和
事業所名	グループホーム 陽だまり
所在地	福岡県みやま市瀬高町下庄480番地3
自己評価作成日	令和4年2月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人 福岡県メディカルセンター		
所在地	福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号		
訪問調査日	令和4年3月9日	評価結果確定日	令和4年3月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな田園地帯にあり、静かな環境である。施設の行事には地域の方も参加され、交流を大事にし、地域に根差したグループホームを目指している。  
1ユニット9名定員の少人数介護の利点を活かし、入居者一人ひとりの現在抱えている問題点を詳細に把握することで、その人に合った自立支援に取り組んでいる。また、理念である『のんびり、ゆったり、その人らしく』のように、利用者様が自由にのびのびと生活され、個々の残存能力にあったお手伝いやレクリエーションに参加して頂き、「その人らしさ」を大切に、認知症の進行防止に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

田園広がる静かな環境にある事業所である。「地域で共に暮らせる幸せ、のんびりゆったり、その人らしく」を目指し、利用者9名の少人数介護の利点を活かして、利用者一人ひとりのペースに合わせた介護サービスを提供している。コロナ禍においても感染対策を講じた上で外出支援に前向きに取り組んでいる。施設長や管理者をはじめ、全ての職員は笑顔で利用者や訪問客に接し、玄関先や共有空間の家具の配置などにも細やかな気遣いが感じられる。心理的、物理的な身体拘束についての研修を定期的に受け、理解度を深めており、利用者への言葉遣いや支援の様子から、身体拘束をしないために様々な工夫を実践していることが伺えた。事業所名のとおり、「陽だまり」のように利用者と職員の温かい笑顔が印象的な事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の中に「地域とともに暮らせる幸せ」を掲げ、毎日、朝礼時に唱和し、地域への貢献を図るべく、職員の気持ちを同じくする。	朝礼時に理念を唱和し、どういう思いを実現したくてその理念が作られたのか、理念に基づく支援を実践できているかを各自で振り返っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年、文化祭やウォークラリー等の行事を行い、地域の行事への参加等で交流を行っている。(今年は新型コロナの影響で実施できていない)	地域との交流はコロナ禍で減少してはいるが、近隣住民から採れたてのナスや里芋などの野菜をもらったり、散歩の途中で挨拶や立ち話をしたり、これまで築いてきた関係性が途切れないう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェ等での認知症予防教室、出前講座を地域の人に行っている。(今年は新型コロナの影響で実施できていない)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に6回実施し、利用者の状況、サービス改善への取り組み、入退居者の報告、入居待機者報告、監査改善結果報告を行い施設のサービス向上に活かしている。施設の行事にも運営推進委員の協力を得ている。	2か月に1回の頻度で開催し、欠席者には書面で議事録を配布して情報共有している。会議に出席している区長、民生委員、老人会会長の協力もあり、事業所の特色が地域に浸透してきている。実際に事業所への入居について、個別に相談を受けることも増えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、市役所担当者の出席を得ており、事業所の実状を共有し、連絡、相談を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。	運営推進会議を通して、事業所の実情や課題に感じている点などの情報を共有し、疑問があればその時点で相談、情報交換のできる関係性を築いている。共用型デイサービスに関する話し合いなど、サービスの充実に向けて協力し合っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し、2か月に1回、委員会を開催し、年2回全職員による勉強会を実施し拘束をしない取り組みを周知徹底している。事案ごとにスタッフ同士で、拘束しない工夫等を検討している。	毎日ミーティングの中で実例を示して、適切な対応だったか、他にも良い方法はなかったかを検討している。また内部研修を年2回開催し、外部の研修へも積極的に参加するなどして、知識向上に努めている。介護のプロであるとの意識を常に持ち、各自で創意工夫をしながら、身体拘束をしないケアの実践に向けて取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会の委員および全職員は、社内および社外に於いて研修に参加し、身体的虐待、言葉による虐待、経済的虐待、性的虐待、ネグレクト等、虐待が見過ごされないよう防止に努めている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年2回、全職員に対しての勉強会を実施している。事業所内にパンフレットを準備をしていて説明を求められたら説明出来る体制は整えている。	権利擁護に関する外部研修には必ず管理者が出席して、職員に伝達講習をしている。必要時にはパンフレットを用いて、全ての職員がある程度の内容を説明できる体制である。詳しい内容や複雑な問題には対応できる職員に引き継いだり、相談先を紹介したりして支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時または家族に疑問が生じた時、十分な時間を設けて説明を行っている。改定の際は、運営推進会議で説明、家族への文書での説明など、ご理解頂いた上で実施している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に「ご意見箱」を設置し、意見、不満、苦情を投函できる仕組みを作っている。家族面会時に生活の様子を伝えなにか気になる事があれば話を聴き改善、要望に努めている。	言い出しづらい意見などを表に出せるように目安箱を設置したり、訪問時に要望などはないかを直接尋ねたりしている。家族会を開催していたときは、その中で意見や要望を聞く時間を設けていたりしたが、コロナ禍で集まる機会が途絶えてしまっている。	感染症対策を考えると実際に集まり、意見を交わす場を設けることは難しい状況である。家族に定期的にアンケート調査を行い、具体的な項目を示してチェックを付けてもらうなど、何げなく思っていることを汲み取っていきけるような取り組みに期待したい。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者も介護職として働いているため、普段の会話の中で、現場で発生している問題点、困りごと、改善して欲しい点等について話せるように心掛けている。	管理者も職員と一緒に利用者への支援を行うため、要望などを伝えやすい環境である。実際に車いすの利用者の体調管理についての相談を受け、車いすのまま測定できる体重計を自作したこともあり、職員からの意見を前向きに検討して反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護に関するステップアップのための資格取得や研修会参加を積極的に奨励し、その成果を給与等に反映し、やりがいや向上心を持って働けるよう努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集、採用にあたっては、性別や年齢などを理由に採用対象から排除せず、採用を行っている。また、スキルと適性にあわせて配置を検討し、働きやすい環境を整えるよう努めている。また、本人の自己実現のため外部研修参加や資格取得を奨励し、費用や手当等のサポートを行っている。	性別や年齢、資格の有無ではなく、その人の能力や介護職への適正があるかを重視して職員を採用している。新たに介護に関する資格の取得を目指す職員には費用などをサポートし、取得時に手当の支給を検討するなど、職員のスキルアップにも意欲的に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	年2回、全職員に対しての研修を実施している。同和問題・人権講演会や高齢者虐待防止、権利擁護等の外部研修に参加し、職員への人権教育、啓発に努めている。	管理者は同和問題、高齢者虐待、人権に関する講演会などの外部研修に参加し、勤務で参加の難しい職員に伝達講習をしている。その他にも内部研修を年2回開催して、利用者の人権を尊重した支援に努めている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格の取得、外部研修はスタッフ個人の学びたい意思等を尊重し、可能な限り参加させている。 職員の配置にあたっては、スキルと適性にあわせて配置を検討し、各自が成長しながら仕事ができるよう配慮している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会の際には同業者と話す機会があるので、積極的に意見交換をするようにしている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始までに、家族・関係者等から本人の生活の様子や趣味や得意な事、苦手な事を情報収集し、スタッフ間で対応策を検討し、安心してサービス利用を開始できるように努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始までに、何度も面談を行い、ご家族の困っていることや要望等を聞き、利用前に不安なことは解消できるように努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様、ご家族様との話の中で困っていることや要望されていることを把握し、今何が必要なのかを見極め、適切なサービスを受けられるよう対応している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自室の片付けや洗濯物たたみ等、できることは本人様にやって頂くという考え方をもとに、本人様と共に生きる、共に生活する場となるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	ご家族へのアセスメントも実施し協同で計 画書を作成できるようにしている。 必要に応じて面会して頂いたり、行事への 参加を通して、ご家族との絆が切れ目なく 続くように支援している。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様の知人や近所の方が気軽に面会できたり 、ご家族との外出を自由に行って頂ける環境 作りをしている。また、施設の各行事では地域 の方の参加をお願いしている。ただ、コロナ禍 のため、ご家族との面会は、制限や解除を繰り 返している状況である。	コロナ禍以前は知人や親戚の方が事業所を 訪れるなど、利用者の馴染み深い関係の人 と交流する機会を設けていた。感染状況を 見ながら、再開に向けた検討を行うなどし て、これまでの体制を継続するべく取り組 んでいる。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せ ずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	日常会話やレクリエーションを通して 利用者様同士が関わり合えるよう必要 に応じてスタッフが間に入り、仲良く 生活できるよう努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	日頃から本人様・ご家族の方とのコ ミュニケーションを取り、本人様が退 去された後も、家族の相談にのりアド バイスを行う等、家族の支援ができる 体制をとっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	担当職員を決め、日常の会話や表情の 変化等から本人様の希望、要望をくみ 取り、また、家族の意見も取り込んで 対応できるようにしている。	日常の会話や表情の変化などから、希望や要望 を汲み取っている。入居時に利用者についての 情報を家族から聞き取り、言葉として上手く表 に思いを出せなくなっても、支援時の表情や仕 草から今、どう思っているのか、本人本位で検 討するよう心掛けている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	本人様・ご家族・病院・施設などと連 携し、入所に至るまでの暮らしの情報 収集を行い、入居後も今までの生活の 延長として生活できる様な支援を心が けている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	朝夕の申し送りは要点を記録と口頭で 伝達するようにしている。また、介護 記録に1日の過ごし方や心身の状 態・食事摂取状況・排泄状況などを記 載している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入所者様やご家族様からの希望や要望を組み込み、ケアプランの適宜見直しを行っている。	ケアマネージャー、担当職員、家族、利用者で話し合って介護計画を作成している。目標や課題、対応策は具体的な内容で示して、達成度を把握しやすくすることで、現状に即した介護サービスの提供に繋がっている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の記録や申し送り、話し合いなどで情報共有を円滑に行い、日々の介護に活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様やご家族様の希望に合わせ、通院や外出の支援も対応している。月1回のPT訪問も行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族や地域住民、民生委員等に参加して頂ける行事は積極的に呼びかけている。また、消防署の協力にて避難訓練や中学校からの職場体験などの受け入れを行っている。今は、コロナ禍の中、限定的なものになっている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回、かかりつけ医の往診があり、健康相談、定期の投薬、予防接種の施行を行っている。また、主治医への状態報告や指示受けを確実にし、医療機関との関係作りに努めている。	かかりつけ医の往診時に定期診察や予防接種などが行われ、日常生活の中で気になる点、配慮が必要な点などの情報共有をしている。夜間でも往診対応可能な医療機関が協力医であり、利用者が適切な医療を受けられる体制が整っている。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に相談し、助言や指示をもらい、早期対応にて受診や看護が受けられるよう努めている。また、往診時の医師への上申、外来受診の対応を指示のもと行っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際はADL等の情報を提供し、家族と共に医師から受診結果・治療方針を聞き、医療機関と密に連絡をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の方針を説明し、同意を得ている。看取り開始時には、ご家族・主治医などと方針を共有し、出来る限りの対応を行っている。	入居時に重度化した場合や終末期の方針についての意向を聞いている。状態変化時に事業所で対応できる支援の内容を説明して、主治医や家族を交えて看取り介護の対応を話し合い、利用者の望む最期を迎えられるよう支援している。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時や事故発生時の対応方法についてはマニュアルを定め、その都度スタッフ間で利用者様のリスクに関し情報共有を行っている。また、処置・対応に関し不安な点は主治医・管理者・看護師に確認している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を消防署の協力を得て日中・夜間の設定を行い実施している。消防署の方から避難についてのポイント等の講評を頂いている。地域の方々と消火訓練を実施したこともある。	昼と夜のそれぞれを想定した避難訓練を実施している。地域住民や隣接する老人ホームの職員との協力体制が整っており、訓練を通して火災や風水害時の利用者の避難誘導などの経験を積み、もしもの時に備えている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重し、その方々に合った声掛けを行い、自尊心を損なわないよう留意している。	言葉遣いや声量には特に気を配っている。親しみやすさと馴れ馴れしさをはき違えてないか、職員間でも注意し合い、利用者の人格や誇りを尊重した対応を心掛けている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	可能な方には、入浴の際にはご自分で着る服を選んで頂いたり、なるべく自己決定できるよう工夫し、利用者様の希望を尊重している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体操、レクリエーション等への参加を無理強いせず、利用者様の希望やペースで過ごせるように支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	担当スタッフが衣替えを行い季節に合った洋服を着用できるように支援している。定期的に理容師による散髪を実施している。乳液や化粧水などの購入希望は職員が相談にのっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の作業能力に応じて、野菜の皮むきや食器の跡片付け・テーブル拭きを手伝ってもらっている。 また、クリスマス等の行事の際はお菓子作りなどを職員と一緒にやっている。	利用者それぞれの力や好みを活かし、野菜の皮むきやテーブル拭きなどの食事の準備を職員と一緒にしている。行事の際にはケーキのデコレーションや桜餅のあんこ挟みなどをすることもあり、準備の段階から食事の場を楽しんでもらえるよう工夫している。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月体重測定を行いBMIが適正な値かチェックし、食事量や水分摂取量を記録に残している。また、食べやすいように個々に合った形態を工夫している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。自力ではできない方には介助を行い、義歯を使用されている方にはケア後の確認をし、義歯は毎晩薬剤で浸け置き洗浄を行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄の間隔、パターンを把握し、誘導を行うことで、排泄の失敗を少なくするよう心掛けている。排泄の訴えがあればすぐに対応するようにしている。	タイミングに合わせたトイレ誘導をしており、排泄チェック表での間隔だけでなく、利用者の仕草などの小さなサインを見落とさないようにしている。利用者から主張があった際には直ぐに対応して、排泄の失敗を減らせるように支援している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期的に水分提供を行い、摂取を促している。バランスの良い食事にも注意し、水分摂取の不得手な方には対策を講じている。便通が滞りような場合は、主治医から頓用に処方された緩下剤を用いて排便を促している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	週3回の入浴を実施している。個々に応じた声掛け・案内を行っている。朝昼のバイタル測定を行い、体調のチェックをしている。身体状態によっては、職員2名対応でゆっくりと湯船に浸かってもらっている。	利用者のできる範囲は自身で身体を洗い、手の届かない場所を職員が支援している。利用者の状態によっては職員2名体制で入浴介助し、利用者が清潔な状態を保てるように努めている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は休息が必要と思われる入居者の他にも、本人の希望があれば、ベッドに横になり過ごしていただく時間をとっている。夜間は安眠して頂けるよう入居者の状況に応じて照明や空調等を調整している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師・看護師の指示のもと薬の管理を行い、職員は何を改善するための薬であるか情報を共有している。利用者様に応じて、手渡しや直接口腔内に入れる介助を行う。錠剤の服用が困難な方には潰して対応している。症状の変化のある場合は医師との連携を図り対処している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様個々の能力に応じ、洗濯物たたみ・ちり紙たたみ・掲示物作成等して頂いたり、本人様の希望される事への支援を行い、楽しみ・生きがいに繋がるよう心掛けている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	屋外に散歩に出掛けたり、敷地内での日光浴など気分転換を図るよう働きかけている。 コロナが落ち着いている期間は、季節に応じて、車で花見や買い物等に出掛けている。	事業所の周辺を散歩したり、敷地内の庭でお茶をしたり、日光浴や外でレクリエーションをしたりして、外の空気を感じる機会を設けて、気分転換を図っている。感染状況が落ち着いたら、以前のように買い物、花見、ドライブなどに出かけられないかを検討している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の重度化に伴い、金銭（お小遣い）に関しては、ご家族希望にて施設で管理している。行事などでの買い物の際には、その都度、お金を手渡し使うことの支援をしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて電話されたり、取り次いだりしている。ご家族への年賀状を書いて頂くよう支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには、七夕飾り・クリスマスツリー等を一緒に飾り付け、設置し季節感を感じれるようにしている。 換気・空調の調整を行い、ストレスなく居心地よく過ごせるようにしている。	共有空間では仲の良い利用者を近くの席に案内するなどして、居心地のよい雰囲気作りに努めている。重度化するなどして外出の難しい利用者でも季節の移ろいを感じられるように、その時期に合わせた飾りつけをしている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様同士の関係性を考慮して座席を配置している。一人の時間を望まれる時は、各自ソファや居室に行かれ、ラジオを聴かれたり昼寝等をして自由に過ごされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の居室は、本人の状態をみながら、家族と相談し、可能な範囲で馴染みの家具を持ち込んで頂き、部屋に配置し、家族写真や花等を飾ったり、落ち着いて過ごせるように配慮している。	家具の持込時には家族とも相談し、利用者が居室内で気兼ねなく移動できるスペースを確保できる範囲に留めている。使い慣れたダンスや鏡台、仏壇などが実際に持ち込まれており、家族の写真や利用者の好きな花などが飾られている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口には写真や名前を掲示し、トイレも分かりやすく表示し、混乱や不穏が少なくなるようにしている。居室内やフロアは、移動の妨げにならないよう家具・備品を配置している。個々に合った出来ることには、声を掛け、行って頂けるようにしている。		